

# 第20回 (H24.夏) 佐鳴湖水質調査の結果



平成24年9月 清流ルネッサンスⅡ佐鳴湖地域協議会

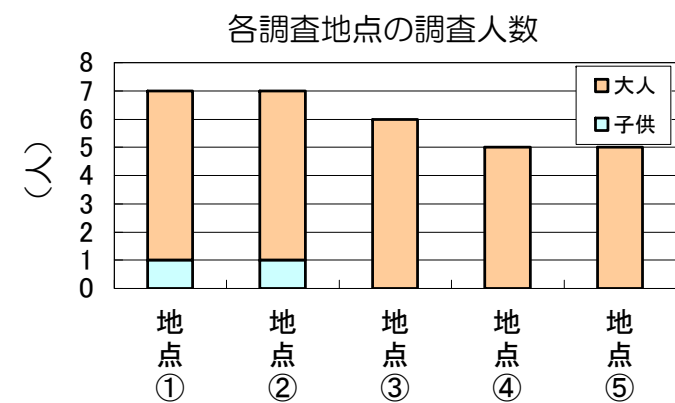
佐鳴湖では、住民の方に協力いただき、水のきれいさや生物の豊かさなどを調査しています。平成19年10月から始めたこの調査は、今回で通算20回目となりました。

調査は大きく分けて「アンケート調査」と「簡易水質調査」の2つがあります。「アンケート調査」は住民のみなさんに調査地点の水を見たり触れたりしてもらい、評価や感想を回答いただくものです。「簡易水質調査」は現地で簡単な器具を使い、水質をその場ですばやく判定するものです。それらの結果と、静岡県が詳しく測定した水質の調査結果をあわせて、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」と「豊かな生態系の確保」などの視点から、佐鳴湖の環境を評価しています。

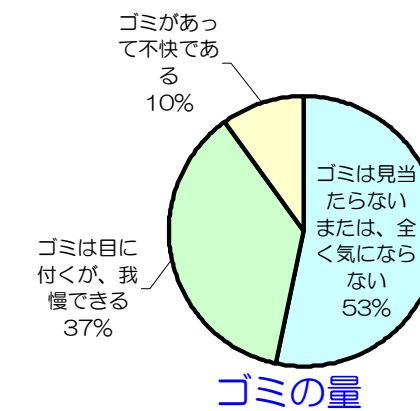
視点	調査の内容	
	アンケート調査	簡易水質調査
人と湖沼の豊かなふれあいの確保	ごみの量、水のおいしさ、湖底の様子、アオコ発生、水辺の音、水の透明さ、水とのふれあいややすさ	透視度、透明度、700フィルの簡易確認
豊かな生態系の確保	水辺の植生、水生生物	溶存酸素(DO)、アモニア態窒素(NH <sub>4</sub> -N)
湖沼の基本的特徴の表現		pH、COD



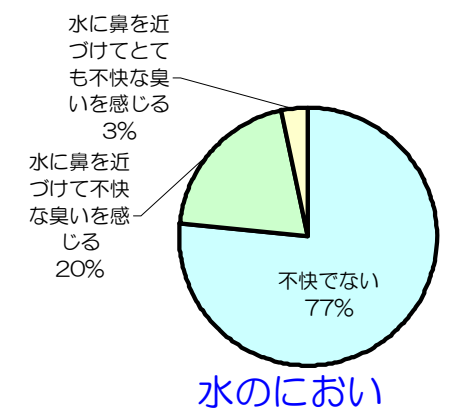
調査日時：平成24年8月25日(土)  
9時～12時  
参加人数：24名  
(大人23人、子供1人)  
調査地点：5地点 ※1人2地点ずつ測定



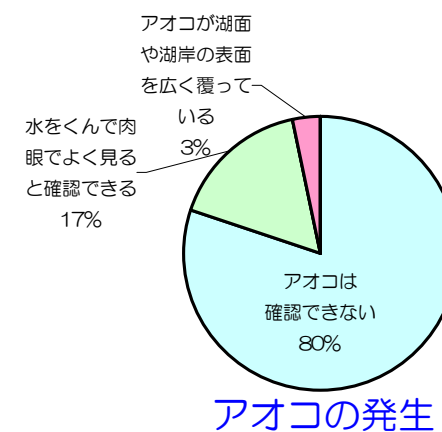
## アンケート調査の結果



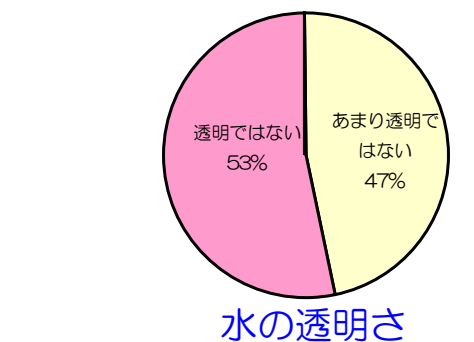
53%の人が「ゴミは見当たらない、または全く気にならない」と答えました。



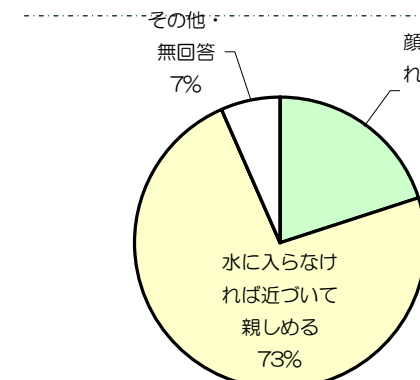
77%の人が、水に鼻を近づけても「不快でない」と答えました。



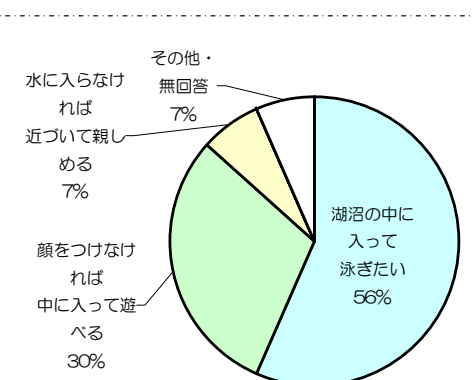
「アオコは確認できない」という回答が大半を占めました。



「透明ではない」という回答が半数を超えました。

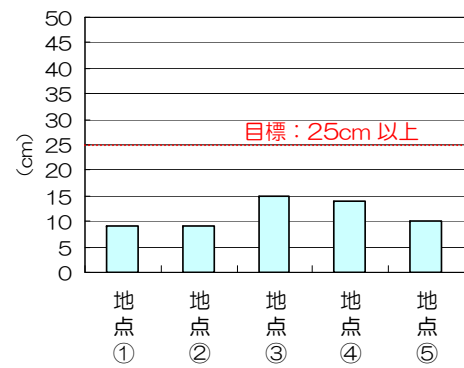


「水に入らなければ近づいて親しめる」という回答が73%で最も多くなりました。



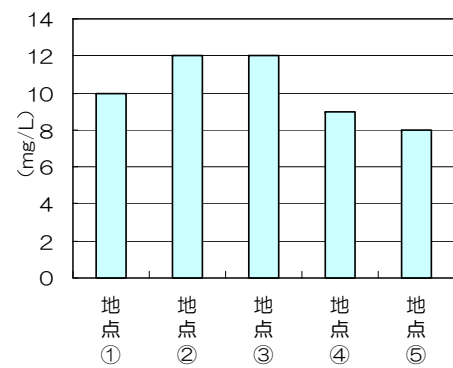
将来は「水の中に入って泳ぎたい」という回答が56%で最も多くなりました。

簡易水質調査の結果



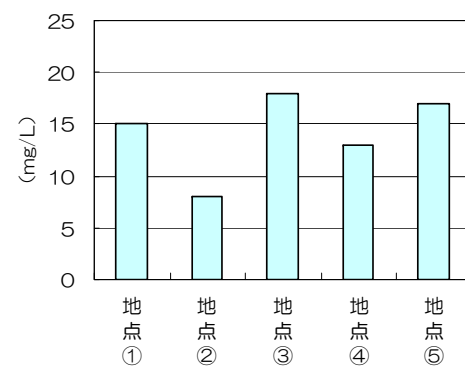
透視度

透視度（水の透明さの程度）は 9 ~ 15cm で、前回春の結果とほぼ同じでした。



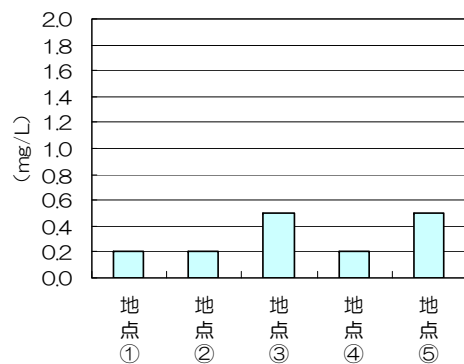
溶存酸素 (DO)

生物の生息に必要な、水に溶けている酸素の量 (DO) は、簡易測定で 8~12mg/L でした。



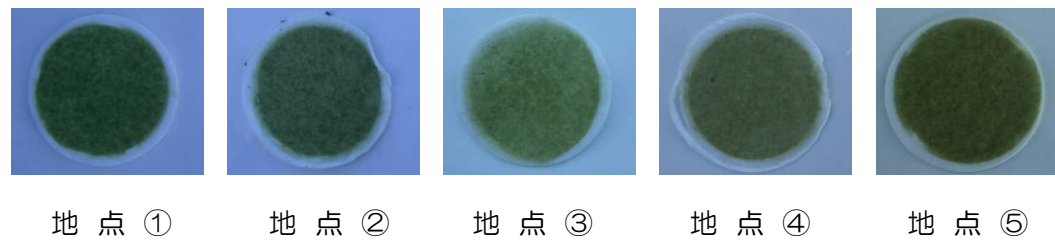
化学的酸素要求量 (COD)

有機物による水の汚れの程度を表す COD は、簡易測定で 8~18mg/L でした。



アンモニア態窒素 (NH<sub>4</sub>-N)

生物の死がいなどが分解されてできるアンモニア態窒素は、簡易測定で 0.5mg/L 以下でした。



地点① 地点② 地点③ 地点④ 地点⑤

クロロフィルの簡易確認

注射筒とろ紙を使って、200mL の水をろ過しました。ろ紙の色は佐鳴湖全域で同じような緑褐色となり、色見本の番号は No. 7 や No. 8 が最も近い色として選ばれました。



河川管理者（静岡県）による測定結果

測定項目	SS (mg/L)	濁度 (度)	クロロフィルa (μg/L)	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)	溶存酸素 DO (mg/L)	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	アンモニア態窒素 NH <sub>4</sub> -N (mg/L)
調査地点①	21	50.5	114	18	13.1	10.6	<0.01
調査地点②	19	41.3	88.5	320	10.4	9.5	0.03
調査地点③	20	43.4	80.9	8	8.1	9.4	0.08
調査地点④	26	42.8	62.3	16	10.7	9.6	<0.01
調査地点⑤	68	64.5	64.9	66	7.0	13.5	0.12

溶存酸素 (DO)、アンモニア態窒素 (NH<sub>4</sub>-N) はおもに底のほうにすむ生物がすみやすい環境であるかを調べるため、底層の水を採取して調べています。

生物調査の結果

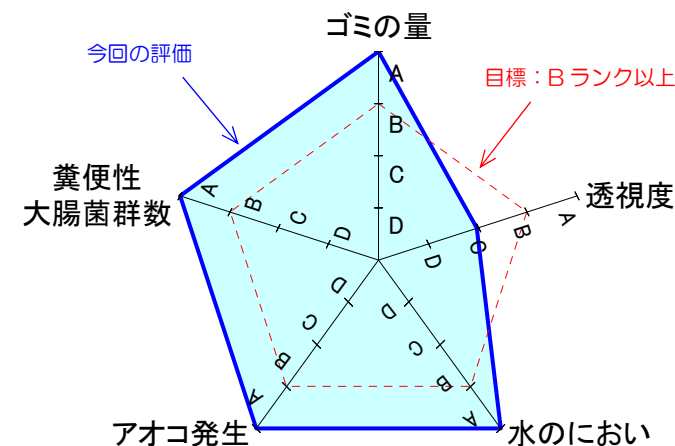
ペットボトルで作ったしかけやタモ網を使用して、水辺にすむ生物の調査を行いました。調査を行ったのは②③⑤のあわせて3地点です。

テナガエビ、スジエビ、ヌマエビの仲間が多く見られたほか、アリアケモドキ、クロベンケイガニ、モクスガニがとれました。魚はメダカ、チチブ、カワアナゴ、クロダイ、アベハゼが確認できました。

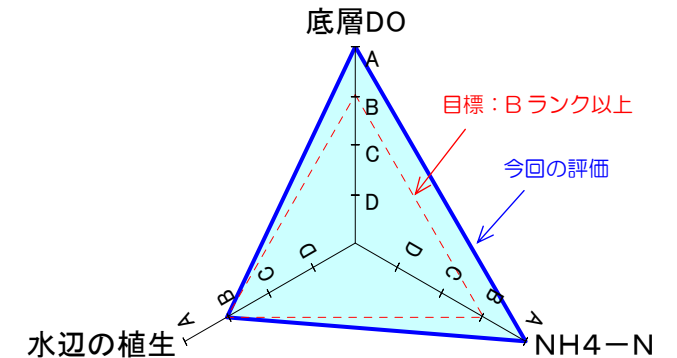


湖沼における新しい水質管理指標（案）による評価

みなさんの調査の結果と河川管理者（静岡県）による測定結果を、平成 22 年度に国土交通省より発表された評価方法で評価しました。下のグラフは、今回調査した 5 地点の評価を項目ごとに平均したものです。佐鳴湖の当面の目標は、すべての項目で B ランク以上になることです。今回も春の調査結果と同様、透視度が C ランクとなり達成できませんでしたが、その他の項目は A または B ランクでした。なお、8 項目×5 地点のうち A ランクの数はいずれも 29 個で、全体の 73% でした。



人と湖沼の豊かなふれあいの確保



豊かな生態系の確保

おわりに

今回は日差しが強く、非常に暑い中での調査となりました。ご参加くださった皆様、ありがとうございました。秋は、佐鳴湖でとれたウナギとテナガエビの試食を予定しています。多くの方のご参加をお待ちしております！



この調査結果の詳細については、こちらまでお問い合わせください。  
お問い合わせ先：清流ルネッサンスⅡ佐鳴湖地域協議会  
（事務局）静岡県浜松土木事務所 企画検査課（053-458-7266）